

<57> 指揮者のために。「滅ぼすな」の調べで。ダビデによる。ミクタム。ダビデがサウルから逃れて洞窟にいたときに。

57:1 私をあわれんでください。神よ。私をあわれんでください。私のたましいはあなたに身を避けていますから。私は滅びが過ぎ去るまで御翼の陰に身を避けます。

57:2 私はいと高き方神を呼び求めます。私のためにすべてを成し遂げてくださる神を。

57:3 神は天から助けを送って私を救い私を踏みつける者どもを辱められます。セラ神は恵みとまことを送ってくださいます。

57:4 私のたましいは獅子たちの間で人の子らを貪り食う者の間で横たわっています。彼らの歯は槍と矢彼らの舌は鋭い剣です。

57:5 神よあなたが天でああなたの栄光が全世界であがめられますように。

57:6 彼らは私の足を狙って網を仕掛けました。私のたましいはうなだれています。彼らは私の前に穴を掘り自分でその中に落ちました。セラ

57:7 神よ私の心は揺るぎません。私の心は揺るぎません。私は歌いほめ歌います。

57:8 私のたましいよ目を覚ませ。琴よ豎琴よ目を覚ませ。私は暁を呼び覚まそう。

57:9 主よ私は国々の民の間でああなたに感謝しもろもろの国民の間でああなたをほめ歌います。

57:10 あなたの恵みは大きく天にまで及びあなたのまことは雲にまで及ぶからです。

57:11 神よあなたが天でああなたの栄光が全地であがめられますように。

られます。」と確信しています。苦しい中でこそ、このように宣言することが重要です。大きな力になります。

またダビデがそれを詩で表わしていることに着目せずにはいられません。彼は、「私のたましいは獅子たちの間で人の子らを貪り食う者の間で横たわっています。彼らの歯は槍と矢彼らの舌は鋭い剣です。」というように、これまでもそうなのですが、自分の苦しみを豊かなことばで表しています。

もしかしたらそれが、感情を昇華させるのに役立つのかも知れません。もちろん信仰があつてこそですが、その信仰とともに、自分の苦しみを作品とすることによって、冷静に客観的に見られたのかも知れません。祈りと共に自分の苦しさを詩としてみよう強さを試みてはいかがでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

